

# 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ (改定案) 【概要】

内閣府

総合科学技術・イノベーション推進事務局

令和5年1月26日



# 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定

- 日本全体の研究力を向上させるためには、大学ファンドによる限られたトップレベルの研究大学への支援と同時に、地域の中核となる大学や特定分野に強みを持つ大学など、**実力と意欲を持つ多様な大学の機能を強化**していくことが重要。
- こうした背景の下、実力と意欲を持つ大学が、**自身の強みや特色を最大限発揮し、成長の駆動力となってグローバル課題の解決や社会変革を牽引**することを目指し、政府全体の支援策を「**地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ**」としてとりまとめ、**令和4年2月の総合科学技術・イノベーション本会議にて決定**。
- **関係府省が連携し、当該パッケージに基づいた支援を着実に推進**するとともに、大学ファンドの検討状況等を踏まえ、日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成に向けて、**大学ファンド支援対象大学と地域中核・特色ある研究大学とが相乗的・相補的な連携を行い、共に発展するスキームの構築**に資するパッケージ内容へと、**さらに発展・進化させていくため、令和4年度中に、総合科学技術・イノベーション本会議において改定予定**。

## 量的拡大

- ◆ 令和4年度第2次補正予算額  
**2,110億円 + 1,048億円の内数**  
この他、関連予算として**418億円**

- ◆ 令和5年度政府予算案  
**442億円**  
この他、関連予算として**720億円**

（令和4年度予算額  
**462億円**  
この他、関連予算として**557億円**）

※関連予算とは、大学が参画することも可能な事業の予算であり、その規模については、内数のものも総額を計上

## 質的拡充

- ◆ 総合振興パッケージで**目指す大学像を明確化**するとともに、「今後に向けて」を踏まえて「**大学自身の取組の強化**」に向けた**具体策を充実**

総合振興パッケージ（令和4年2月決定）  
～今後に向けて～（抄）

- 本パッケージについては、文部科学省\*で検討の緒に就いた、**大学の強みや特色を伸ばす取組強化の具体化・実質化等に向けた議論の動向**も踏まえつつ、今後、改定を行っていく予定（※ 科学技術・学術審議会大学研究力強化委員会）。

- ◆ 研究者が研究に専念できる時間確保に向けた**専門職人材の量・質の確保**や、研究DXや設備・機器等の**研究インフラ管理・利活用**など、**大学の研究マネジメントに着目した政策との連動**

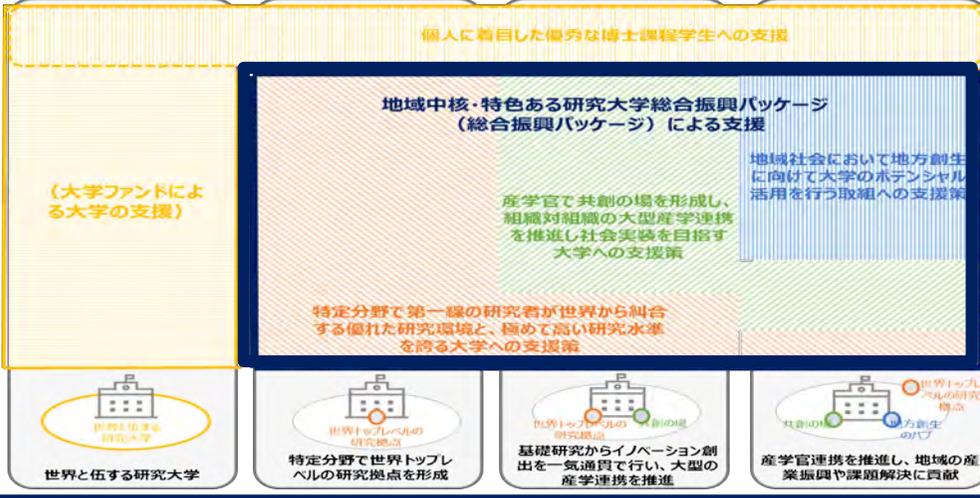
- ◆ 総合振興パッケージに含まれる**各府省の事業間の連携強化**や、「**関連事業マップ**」の更なる**充実**（「**ヘルスケア・健康づくり**」領域を追加）

# 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ (改定案)

令和5年〇月 総合科学技術・イノベーション会議決定

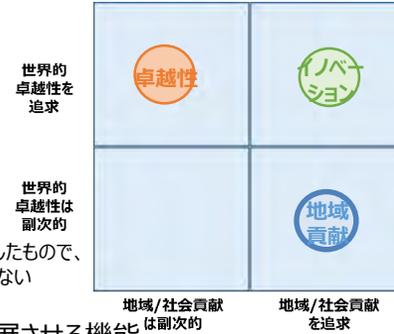
## □ 目指す大学像

研究活動を核とした大学に求められる機能について、自らのミッションや特色に応じたポートフォリオを描きつつ戦略的に強化し、大学の力を向上させることで、新たな価値創造の源泉となる「知」と「人材」を創出、輩出し続ける大学



## □ 大学に求められる機能

保持・強化することが期待される、研究活動に係る機能と、それに連動した高度人材育成に係る機能とを、「卓越性」と「地域・社会貢献」の観点から、3つの要素に分解



※象限毎に機能を分類したもので、それぞれの象限に優劣はない

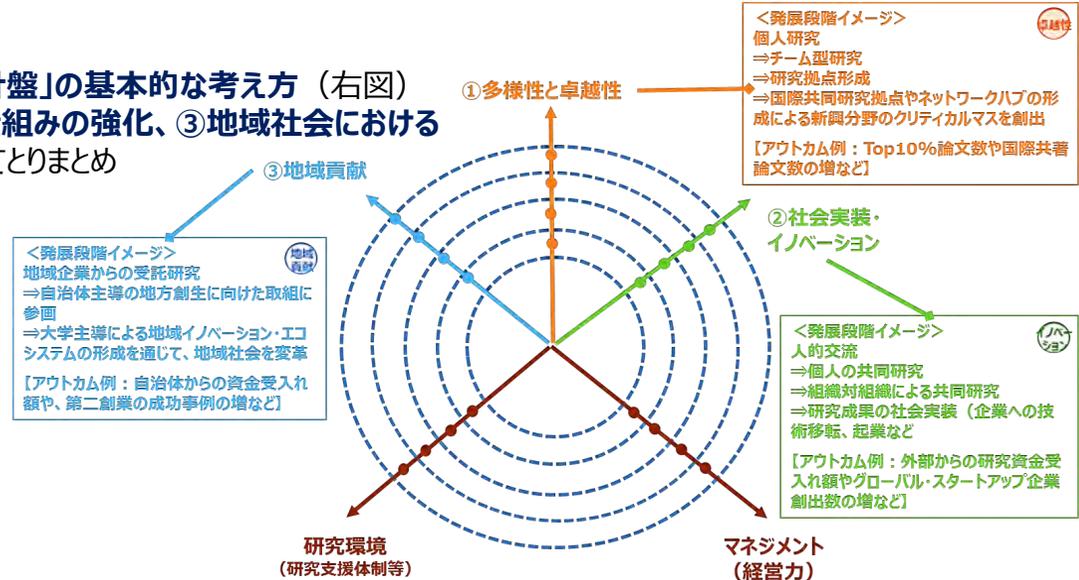
- 卓越性**
  - 【研究】学術研究の多様性と卓越性を発展させる機能
  - 【人材】多様な専攻の博士課程を通じて、将来アカデミアを含めて社会で広く活躍し次代を切り拓く人材を養成する機能
- イノベーション**
  - 【研究】地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能
  - 【人材】イノベーション創出を担う人材を養成する機能
- 地域貢献**
  - 【研究】地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能
  - 【人材】地域の中核となる知の拠点として、地域ニーズに対応した人材養成機能

## □ 総合振興パッケージの狙い (目的)

求められる『機能』の観点から大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の基本的な考え方 (右図)を示しつつ、各府省の事業等を①大学自身の取組の強化、②繋ぐ仕組みの強化、③地域社会における大学の活躍の促進の3段階に整理して、1つの政策パッケージとしてとりまとめ

大学による、自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略に基づく、**選択的かつ、発展段階に応じた機能強化を加速**

地域の中核大学等が**地域社会の変革のみならず、我が国の産業競争力強化やグローバル課題の解決**に大きく貢献



# 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ (総合振興パッケージ)

令和5年度政府予算案 442億円  
 令和4年度補正予算額 2,110億円+1,048億円の内数  
 令和4年度予算額 462億円  
 (この他、関連予算※として、720億円(557億円))  
 ※大学が参画することも可能な事業(予算額については、内数の予算も含めて集計)

- 地域の中核大学や特定分野の強みを持つ大学が、“特色ある強み”を十分に発揮し、社会変革を牽引する取組を強力に支援
- 実力と意欲を持つ大学の個々の力を強化するのみならず、先進的な地域間の連携促進や、社会実装を加速する制度改革などと併せて、政府が総力を挙げてサポート
- 地域社会の変革のみならず、我が国の産業競争力強化やグローバル課題の解決にも大きく貢献

## ①大学自身の取組の強化(442億円)

※青字が予算事業による取組

卓越性

イノベーション

- 研究の多様性・卓越性の発展機能の強化に向けて、特色化を目指した魅力ある拠点形成を支援
- 基盤的経費や競争的研究費による、大学の強みや特色を伸ばす事業間の連携や大学改革と連動した研究環境改善を推進
- イノベーション創出に資する機能の強化に向けて、産学官連携を通じた社会課題解決(産学官連携活動や、スタートアップ創出)を支援
- 研究をしやすい環境構築に向けた改善や、大学のマネジメント体制の改革を通じた、「研究に専念できる時間」の確保に向けた政策との連動
- 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、URAや技術支援を担う人材等の専門人材の配置や活動の支援等による研究環境の高度化等を通じた国際競争力強化や、経営リソースの拡張・戦略的活用を図り、**研究活動を通じて大学の力を抜本的に強化**

## ②繋ぐ仕組みの強化

イノベーション

地域貢献

- 地域の産学官ネットワークの連携強化
  - 地域内に作られている産学官ネットワークを整理し、活用を促進
  - 地域内・地域横断の組織を繋ぐキーパーソン同士の繋がりを広げ、地域のニーズ発見や課題共有を促進
- スマートシティ、スタートアップ・エコシステム拠点都市、地域バイオコミュニティなどの座組活用によるデジタル田園都市国家構想の実現への貢献
- 大学の知の活用による新産業・雇用創出や地域課題解決に向け、大学と地域社会とを繋ぐ(社会実装を担う)観点でロールモデルとなるような繋ぐ人材・組織の表彰・発信

## ③地域社会における大学の活躍の促進(720億円)

地域貢献

- 各府省が連携し、大学の知を活用してイノベーションによる新産業・雇用創出や、地域課題解決を先導する取組を一体的に支援(地域課題解決をリードする機能の強化)
  - イノベーションの重要政策課題や地域課題ごとに事業マップを整理※して、社会変革までの道のりを可視化
  - ポテンシャルの高い取組について、情報共有を図りつつ伴走支援
- 地域課題解決をリードする機能の強化に向けて、大学と自治体との連携強化
  - 地域等(自治体・社会実装を担う官庁)からの資金を受け入れ、地域貢献を行う大学に対してインセンティブを付与
  - 大学が持つ様々なポテンシャルに対する理解を促進し、自治体を巻き込む仕掛け
- 大学への特例措置や特区の活用促進

※MaaS・自動運転、スマート農業、資源循環、地域脱炭素、防災・減災、ヘルスケア・健康づくり、スマートシティ、スタートアップエコシステム拠点都市、地域バイオコミュニティごとに、各府省の事業整理

地域の中核大学や特定分野の強みを持つ大学の機能を強化し、成長の駆動力へと転換  
 日本の産業力強化やグローバル課題解決にも貢献するような大学の実現へ

# 大学自身の取組の強化

令和5年度予算案 442億円  
 令和4年度補正予算額 2,110億円+1,048億円の内訳  
 (令和4年度予算額 462億円)

- 「グローバルな課題への対応」と「国内の社会構造の改革」に向けて、「知と人材の集積拠点」である多様な大学等の力を伸ばし、活躍を促進
- 特定分野の高い研究力の強化、人材育成や産学連携活動を通じた地域の経済社会、日本や世界の課題解決への貢献のために、**地域中核・特色ある大学が強みを最大限に活かし、発展**できるよう、**大学のミッション・ビジョンに基づく戦略的経営の実現**を推進

【 】内はR4補正予算額

## 人材育成

地域の大学群と産業界・自治体と一体で、地域ニーズを踏まえた質の高い人材育成モデルへの転換支援（学生教育、リカレント教育等）

## 社会実装

産学官連携拠点の形成、スタートアップ創出等に向けた学内体制の強化、アントレプレナー、特許戦略を構築する専門集団、大学マネジメント人材等の育成・確保など知的アセットの価値化に向けた活動

## ビジョン主導の戦略的経営に向けた支援

研究で独自色を発揮する取組や大学改革と連動した研究環境改善を推進

## 研究

## 基盤的活動

大学のミッション実現を下支えするための基盤的経費の改善・充実

### 【人材育成・社会実装】(276億円+1,048億円の内訳)

- ◆<文>共創の場形成支援：13,751百万円
- ◆<経>地域の中核大学等のイノベーション・産学融合拠点の整備：【6,004百万円の内訳】
- ◆<内>地方大学・地域産業創生交付金事業：7,000百万円
- ◆<文>大学発新産業創出プログラム（START）大学・エコシステム推進型：1,014百万円【1,009百万円】
- ◆<文>大学発スタートアップ創出の抜本的強化：【98,766百万円（基金）の内訳】（新規）
- ◆<内>地域の中核大学イノベーション創出環境強化事業：PRISMの一部
- ◆<文>地域活性化人材育成事業（SPARC）：919百万円
- ◆<文>成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業：【1,741百万円】 等

イノベーション 地域貢献

### 【研究環境の戦略的強化】(2,000億円)

- ◆<文>地域中核・特色ある研究大学強化促進事業：【149,800百万円（基金）】（新規） 等

### 【研究拠点の形成、研究基盤の強化<文>】(225億円)

- ◆世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)：7,088百万円
- ◆マテリアル先端リサーチインフラ：1,733百万円【2,000百万円】
- ◆生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS）：3,634百万円【1,449百万円】
- ◆先端研究基盤共用促進事業：1,179百万円
- ◆共同利用・共同研究システム形成事業：662百万円（新規）
- ◆創発的研究支援事業（研究環境改善部分）：【4,722百万円】

卓越性

### 【基盤的活動の支援<文>】(50億円)

- ◆国立大学経営改革促進事業：5,000百万円
- 上記の他、国立大学法人運営費交付金（教育研究組織改革の推進、共同利用・共同研究拠点の強化、教育研究基盤設備の整備）、私立大学等経常費補助金（私立大学等改革総合支援事業）、国立大学法人等施設整備費補助金、独立行政法人国立高等専門学校機構運営費交付金、研究のデジタルトランスフォーメーション（研究DX）の推進 等

これらの支援による大学の取組について、大学のミッションに基づくビジョンの実現に向けた位置づけと進捗を事業間で共有し、伴走支援する仕組みを構築。中でも、社会実装を志向し成果を上げているポテンシャルの高い取組は関係府省と連携し、大学の価値創造を社会発展・変革に転換。

# 総合振興パッケージによる支援全体像

- 大学が、自身の強みや特色を伸ばす戦略的経営を展開することで、ポテンシャルを抜本的に強化（**大学が変わる**）
- 大学が拡張されたポテンシャルを社会との協働により最大限発揮し、主体的に社会貢献に取り組むことで、社会を変革（**社会が変わる**）

## ① 大学自身の取組の強化

### 「大学自身の取組の強化」の主な具体策

#### ○ 魅力ある拠点形成による大学の特色化

- ✓ 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、研究活動の国際展開や社会実装の加速等を実現できる環境整備を支援する、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」を基金により創設

#### ○ 大学の研究環境（基盤）やマネジメントの強化

- ✓ 「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」の提示により、研究基盤を全学的な研究マネジメントの一環として位置づけ、戦略的な運営を促進

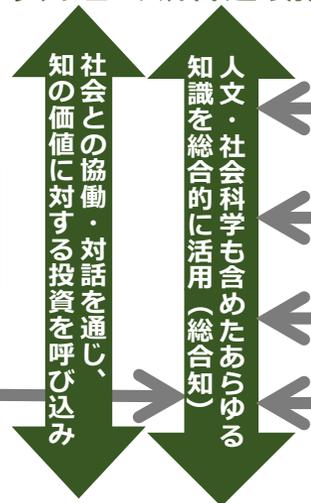
#### ○ 組織間連携・分野融合による研究力の底上げ

- ✓ 国際卓越研究大学や大学共同利用機関等がハブとなり、人材の流動性向上や共同研究の促進、リソースの共有等を図り、我が国全体の研究力向上を牽引する研究システムを構築

## 地域・社会・ステークホルダー

～地域の社会経済の発展に留まらず、グローバル課題の解決や国内の構造改革・社会変革を牽引～

先端的な取組に  
ドライブをかける  
支援の仕組み



自治体との連携強化  
府省間の事業連携による  
一体的支援

制度改革(特区活用)

地域産学官ネットワークの  
連携強化や座組活用

繋ぐ人材・組織の  
表彰

③ 地域社会における大学の  
活躍の促進

② 繋ぐ仕組みの  
強化

総合振興パッケージを通じ、大学の戦略的経営を後押しすることで、  
大学現場における研究に専念できる時間を確保  
(大学の研究マネジメントに着目した政策との連動)



大学による  
強みや特色を伸ばす戦略的経営の展開  
(大学のマネジメント改革を促進)

機能強化・拡張

恒常的に大学の強みや特色を伸ばすための体制づくり  
(基盤的な活動を支援)

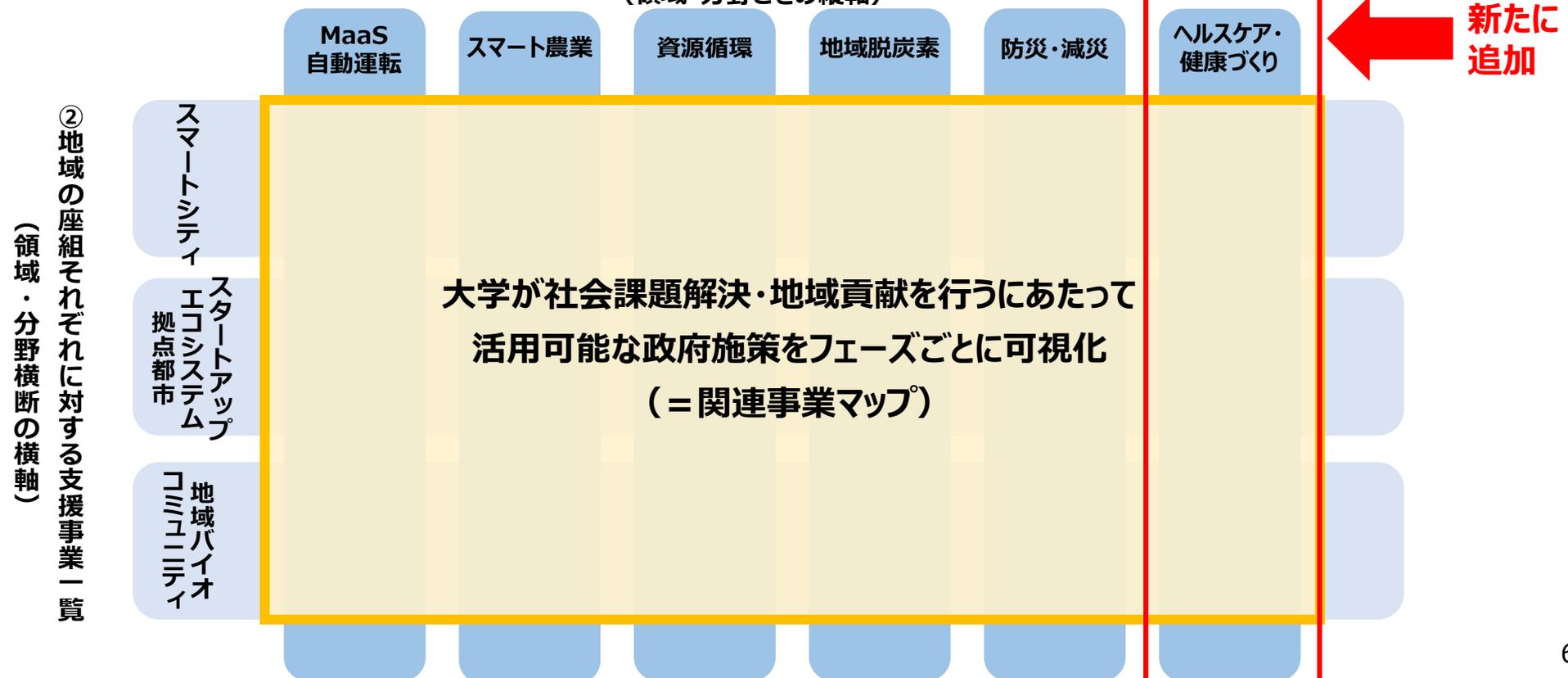
# 地域社会における大学の活躍促進 ～関連事業※の整理～

令和5年度予算案 720億円  
令和4年度補正予算額 418億円  
令和4年度予算額 557億円

※大学が参画することも可能な事業（予算額については、内数の予算も含めて集計）

- 大学が社会課題解決や地域貢献を行うにあたって活用できる施策を各府省が展開しているものの、現場の大学目線に立って連携・接続が出来ていない現状
- **大学による地域課題解決・社会実装を加速**させるために、活用できる**政府関連施策**について、以下の2つの観点から可視化するとともに、ポテンシャルの高い取組については、**事業間で情報共有を図りつつ伴走支援**
  - ①イノベーションの重要政策課題ごとの、研究開発から社会実装に向けたフェーズ
  - ②多様なステークホルダーの連携により、イノベーション創出を通じて地域再生を目指すネットワーク（座組）の仕組み
- **大学現場目線の関連事業マップ**を整理することで、大学がより**シームレスに社会課題解決・地域課題への貢献を行うことが可能**に

①イノベーションの重要政策課題ごとに、社会実装に向けたフェーズで分類した事業一覧  
(領域・分野ごとの縦軸)



# 今後に向けて

- 総合振興パッケージは、全国に存在する我が国の様々な機能を担う多様な大学が、**戦略的な経営の展開を通じて自身の強みや特色を発揮**し、研究力向上や人材育成等により**新たな価値を創出**するとともに、社会との協働により人文・社会科学も含めた**あらゆる知見を総合的に活用（総合知）**し、成長の駆動力として**グローバル課題の解決や社会変革を牽引**することを目指している。
- 今般の改定に当たっては、**総合振興パッケージで目指す大学像の方向性を、大学が保持する機能に分解して整理**すると共に、その目指す大学像に向けて**大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の考え方を示した上で、重層的に展開されている各府省の複数の事業を「繋ぐ」ことを意識して取りまとめた**。これにより、同パッケージの目的を、「**大学がそれぞれ自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略の下、選択的かつ、発展段階に応じて、それぞれの機能を各府省の事業を活用してさらに強化し易くすること**」と、明確にしている。
- 大学の持つ多様な「強み」や「特色」について、機能ごとに具体的にどのように定義し、その**発揮度合（変容の程度）をどう見定めるか**、またその機能強化に向けた**戦略的な他大学等との連携の在り方**など、さらなる検討課題は残されているが、スタートラインとして本パッケージを**大学、自治体、産業界の関係者に広く周知**することで、地域の中核・特色ある研究大学が、**我が国の成長の駆動力として、それぞれのポテンシャルを最大限発揮されるようになることを期待**する。
- また、政府においては、**本パッケージの趣旨を十分に踏まえて**、令和4年度第2次補正予算で基金として計上された「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」をはじめとした、それぞれ**個々の事業の制度設計や推進を図る**ことはもちろん、**パッケージ全体として、どのような効果がもたらされたかについても、定期的にフォローアップ**していくことが必要である。
- 加えて、現在、公募が行われている大学ファンドによる運用益からの支援が開始されるタイミングも見据えつつ、**パッケージの内容をさらに進化**させ、我が国全体の研究力向上に向けて、ファンド対象大学とそれ以外の大学とが相乗的・相補的な連携により共に発展するよう、**有機的な連携や効果的な資金配分の在り方**についてより具体的な内容とするべく、**引き続き検討が肝要**であることを最後に付言する。